

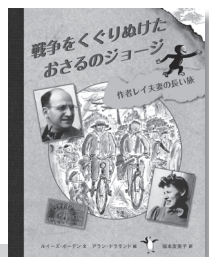
今日の  
**ブックトーク**

4月(卯月)「世界図書・著作権の日」

前田 由紀

／渋谷教育学園渋谷中学高等学校司書教諭

わくわくどきどきの新学期が始まりましたね。お元気ですか。学校図書館では、新入生に図書館の利用案内をする月でもあります。1995年に国連教育科学文化機関(UNESCO)は、世代や文化を越える架け橋としての本の力を称えて、「世界図書・著作権の日」(World Book and Copyright Day)をセルヴァンテスやシェイクスピアら著名作家の命日4月23日に因んで制定しました。日本では、2001年に「子ども読書の日」がこの日に制定されています。



ルイーズ・ボーデン・文  
アラン・ドラモンド・絵  
福本友美子・訳、岩波書店

そこで、まず子ども読書を代表して今回はおなじみの『おさるのジョージ』(Curious George)誕生秘話『戦争をくりぬけたおさるのジョージ』を紹介します。この絵本は、中1の英語多読の時間に毎年紹介しています。「この作家は、どの国の人ですか」と「第二次世界大戦中、作家がパリから脱出しなければならなかったのはなぜですか」と生徒に問いかけます。身近なおさるのジョージの奇跡的な誕生に驚かされるとともに一層歴史的な背景を知ることによって読書が味わい深いものになります。



木村龍之介・著  
大和書房

次は、命日とされる英国作家シェイクスピアに関する入門書『14歳のためのシェイクスピア』です。彼の誕生は1564年(ヒトゴロシ)、没年は1616年(イロイロ)です。ちょうど日本では徳川家康と同世代になります。この時代は英国も大航海時代や宗教改革、ルネッサンスと中世から近代に変わる激動

期でこの先何が起こるかわからない時代であり、著者は現在と重なる同時代性があり、解答ではなく、問いを投げかけてくる彼の広大な作品群に今こそ学ぶことがあると語ります。難解だと敬遠されがちですが、戯曲なので声に出して読むと身体を通して理解できることがあると勧めています。

それでは、彼の代表作『新訳 ハムレット 増補改訂版』を声に出して読んでみましょう。父親の国王を殺されたデンマーク王子ハムレットの復讐劇なのですが、彼は理性と激情の狭間で悩み苦しみます。名セリフ'To be, or



シェイクスピア・著  
河合祥一郎・訳  
KADOKAWA (角川文庫)

not to be, that is the question'の日本語訳は、今までなんと50通りもあるそうです。今回は原文のリズム韻律を尊重し、ライム(押韻)を全て訳出した河合訳です。狂言師の野村萬斎も演出家として大きく関わっている訳となっています。

言葉のシャワーを浴びた後は、「著作権の日」にちなんで、『ゼロからの著作権』です。著作権とは、「著作物



宮武久佳・著  
岩波書店  
(岩波ジュニア新書)

が他人によって無断で利用されない独占的な権利'です。基本的なルールを中高生は、課題や私的SNS利用等でしっかり習得しておきましょう。身近な具体例も沢山出てきます。調べ学習やレポート、自由研究など探究学習での創作物では、引用部分、表やグラフ、画像の出典元を明確にしておくことが大切です。

根本に著作物への敬意があります。



※「今日のブックトーク」「図書館のこよみ」は、全国学校図書館協議会Webサイトに掲載しています。QRコードより、PDFもご活用ください。